

常連メンバー (○: ♀成獣、□: ♂成獣)



マイナーメンバー

- ① 海岸線に時々現れるクマたち
- ② 森の中から出て来ないクマたち
- ③ 繁殖の時期に現れる流れ者のオスたち
- ④ その他、居場所がまだ定まっていない子グマや若グマ

北海道大学獣医学部野生動物学教室 分析資料より

ダイキン工業からの寄附事業として5ヶ年計画で行われているルシャ地区のヒグマ調査は、知床財団・知床博物館・北大獣医学部の連携で進められ、今年で3年目を迎えます。ルシャ川の周辺に高密度に集まっているクマたちの実像が少しずつ明らかになってきています。

ここで見られるクマたちの識別は、毛色や外見の観察に識別に加えて、DNAレベルでも識別することで大幅に進みました。似かよった黒や褐色のヒグマは、なかなか外見だけでは区別できないのです。遺伝子解析のサンプルは、有刺鉄線にクマの毛を引っかけて毛根から分析する「ヘアートラップ」、クマが背擦りする木の樹皮に残った毛を調べる「背擦り木トラップ」、そして、日本で初めて成功させた、注射器を発射して命中させ針先に残った小さな組織片から遺伝子を抽出する「ダートバイオプシ」の3つの手法で行っています。

これらによって、これまで67頭のクマが識別されました。ルシャには一体何頭くらいのクマが住んでいるのでしょうか？ そしてその顔ぶれは如何に？

ここに何頭のクマが住んでいるか、については、はっきりとはまだいえないのが正直なところです。常時見られるお馴染みの面々は、ほぼルシャ周辺に暮らしているといつて良いでしょう。2012～2013年の

シーズンでは、この常連組はメス成獣が11頭、オス成獣が3頭の計14頭でした(うち2頭は既に死亡)。海岸にときおり現れるクマたち、そして、姿は見せないけど森の中のヘアートラップで確認できるクマたちは、ルシャには住んではいるけど人目に付かない内陸側の森を主に住処としているのか、あるいは、別な場所に住んでいて、ときどき来ているに過ぎないのか、まだはっきりということはできません。

また、流れ者と思われるオスグマたちがいます。彼らはこの住人とはいえないでしょうが、メスが発情する繁殖の季節に、殴り込み(?)に来ているようです。はるかかなたの標津からやって来て、何頭も子を残している大グマ(405kg)がその代表です。

他には、まだ居場所が定まっていない子グマや若グマもいます。大まかに言うと、メスを中心に親グマは常連さんが10頭前後住んでいて、その他ときどき訪れるクマも含めると、40頭前後がここで見られるといえるでしょう。(山中 正実)

※現地調査は、知床丸共同漁業部の皆さんの協力によって行われています。

発行 知床博物館協力会 2014.3.26  
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内  
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257  
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>